

平成 26 年 6 月の解説（週間天気予報）

【6月の天候状況】

上旬は、旬のはじめに高気圧が本州付近を東進し、旬の終わりにかけて千島の東に中心を持つ高気圧が勢力を伸ばしながら北日本を覆いました。このため全国的に晴れる日が多く、北日本を中心に気温が平年を大幅に上回りました。日最高気温はのべ 66 地点で猛暑日を記録するなど、北海道を中心に各地で記録的な高温となりました。一方、本州南岸をゆっくりと東進した低気圧や、北・東日本太平洋側に流入した湿った空気の影響で、旬の前半は西日本太平洋側で、旬の後半は北・東日本太平洋側で大雨となったところがありました。九州南部、九州北部では 2 日頃、四国では 3 日頃、中国、近畿、東海では 4 日頃、関東甲信、北陸、東北部では 5 日頃、東北北部では 6 日頃に梅雨入りしました（速報値）。

中旬は、旬のはじめに低気圧と梅雨前線の影響で全国的に天気が崩れました。その後も、北日本と西日本は、気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなりました。特に、北日本日本海側では旬降水量が平年の 324%と 6 月中旬としては最も多く、また旬間日照時間は平年の 33%と 6 月中旬としては最も少ない値となりました（ともに統計開始は 1961 年）。

下旬は、旬のはじめに梅雨前線が本州南岸付近まで北上し、梅雨前線上に発生した低気圧が東へ進んだため、東・西日本の太平洋側を中心に雨となりました。その後、梅雨前線は沖縄・奄美付近に停滞し、沖縄・奄美では曇りや雨の日が続きましたが、旬の後半は太平洋高気圧が強まり、沖縄地方は 26 日頃に梅雨明けとなりました（速報値）。東日本では、上空に強い寒気が入ったため、旬の中頃に関東地方を中心に雷雲が発達し、局所的に非常に激しい雨となり、東京都や長野県ではひょうによる被害が発生しました。

月平均気温は、北・東日本で高くなり、7 地点で 6 月の月平均気温の高い方からの 1 位を更新しました。月降水量は、北日本と関東甲信地方を中心とした東日本太平洋側で多くなりました。1 地点で 6 月の月降水量の多い方からの 1 位を更新しました。一方、東・西日本日本海側と東・西日本太平洋側の一部では少なくなりました。特に、近畿地方の月降水量は平年の 39%となり 6 月としては最も少ない値となりました（統計開始は 1946 年）。8 地点で 6 月の月降水量の少ない方からの 1 位を更新しました。

【6月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値（注）に比べ 4 ポイント高い 68%でした。各地方の適中率は例年値に比べて、沖縄地方をのぞくすべての地方で高くなりました。特に東海から九州南部にかけて 6～11 ポイント高くなりました。一方、沖縄地方は 12 ポイント低くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.5 小さい 2.2 でした。各地方の予報誤差は、沖縄地方で例年値と同じとなり、それ以外のすべての地方で例年値より小さくなりました。特に、東北から中国・四国にかけて 0.4～0.9 小さくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.5 でした。各地方の予報誤差は、北海道と沖縄地方をのぞくすべての地方で小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の週間天気予報の利用にあたって】

8 月は年間を通して最も気温が高く、真夏日（日最高気温が 30 以上の日）が最も多い月です。また、日最高気温が 35 以上の猛暑日となることもあります。向こう一週間で最高気温が概ね 35 以上となることが予想される場合には、高温に関する気象情報が発表されます。週間天気予報に記載している向こう一週間の日々の最高気温予報や、高温注意情報も参照し、熱中症予防など健康管理にご活用ください。